地元のことを人に伝えるということ

伊豆半島ジオパーク推進協議会

妻良湾の風景

妻良湾の風景

しましまの白い崖

妻良湾の風景

三十三観音のある不思議な場所

妻良湾の風景

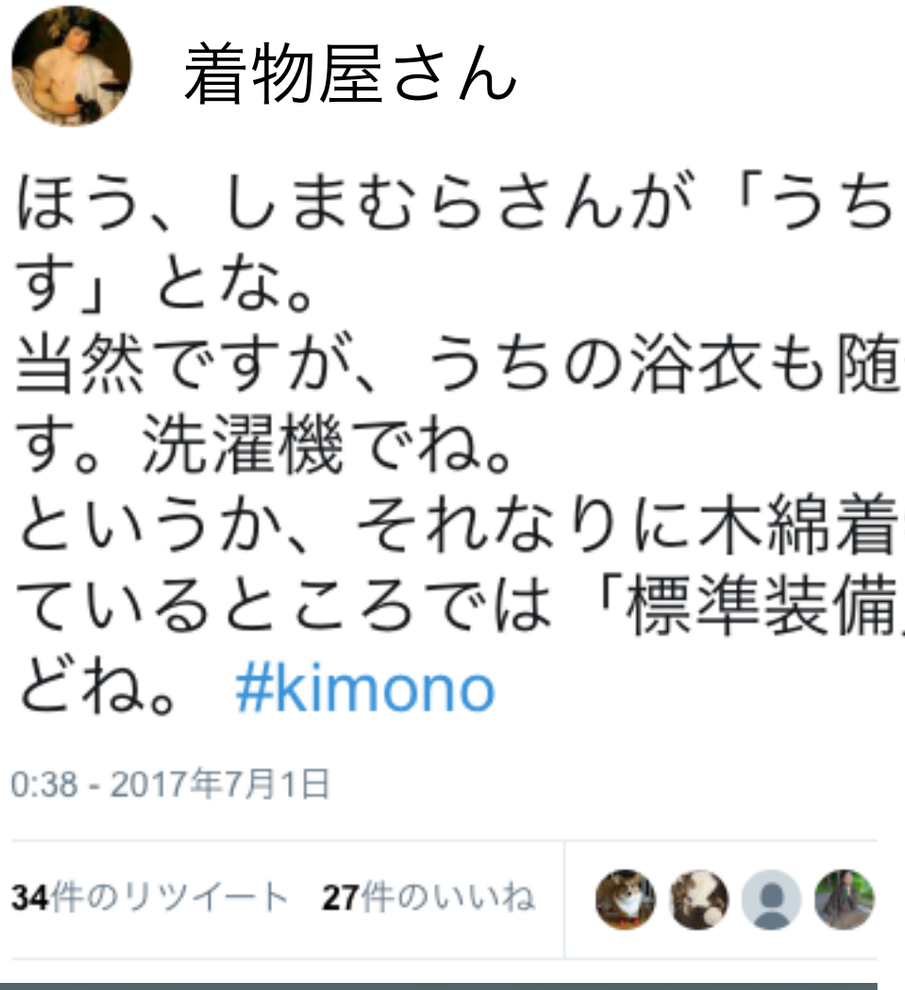
ウバメガシの森

地元の常識 ≠ 訪問者の常識

地元では当たり前のものごとでも、訪れる人にとって当たり前とは限らない。

「しまむら」CM

お手頃価格で「洗える」ゆかた



着物屋さん　フォローする

ほう、しまむらさんが「うちの浴衣あらえます」とな。
当然ですが、うちの浴衣も随分前から洗えます。洗濯機でね。
というか、それなりに木綿着物真面目にやっているところでは「標準装備」のはずですけどね。 #kimono

0:38 - 2017年7月1日

34件のリツイート　**27**件のいいね

着物屋さん　フォローする

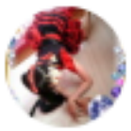
しまむらの洗える浴衣、話題だけど、

浴衣最初から自宅で洗えますから！！

5:52 - 2017年7月2日

37件のリツイート　**52**件のいいね

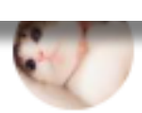
一方で・・・



フォローする

しまむらが自宅で洗える浴衣5800っの出したってｺﾏｰｼｬﾙみたので己メモ。

5:56 - 2017年6月27日



フォローする

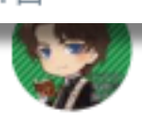
しまむらの洗濯機で洗える浴衣有能すぎない？欲しいんだけど

0:50 - 2017年6月29日

フォローする

しまむらの浴衣欲しい(´；ω；`)
洗えるなんて着放題じゃん(´；ω；`)

6:21 - 2017年7月1日



フォローする

しまむらの洗える浴衣がほしい。でも、着ていくところがない。

8:36 - 2017年7月8日

売り手の常識≠買い手の常識

「ゆかたが洗える」ということを
知らない人にとって、
「気軽で簡単ですよ」
ということを伝えることは大切。

ごく普通に見ていること、体験していること
それは訪問者にとっては特別かもしれない。

「つながり」を大切に

ひとつひとつの「スポット」ではなく、ひろがりをもった伊東の街を紹介したい。

この土地のこと、その魅力を

観光地

産業・伝統文化

きれいな景色

マリンレジャーの場

天然の良港

安全に暮らす工夫

自然のうごきをきちんと知らないとうまくいかない

伊豆石

ウバメガシの森

海底火山の地層

奥まった湾

険しい地形

津波

太古の海底火山

プレートの沈み込み

ときどき地震

地震や火山などの地球のうごき

「なぜ？」に答えられるストーリーを

伊豆といえば
やっぱりわさびだよ

たくさんの温泉や
わき水があるよ

さまざまな歴史の
舞台になったよ

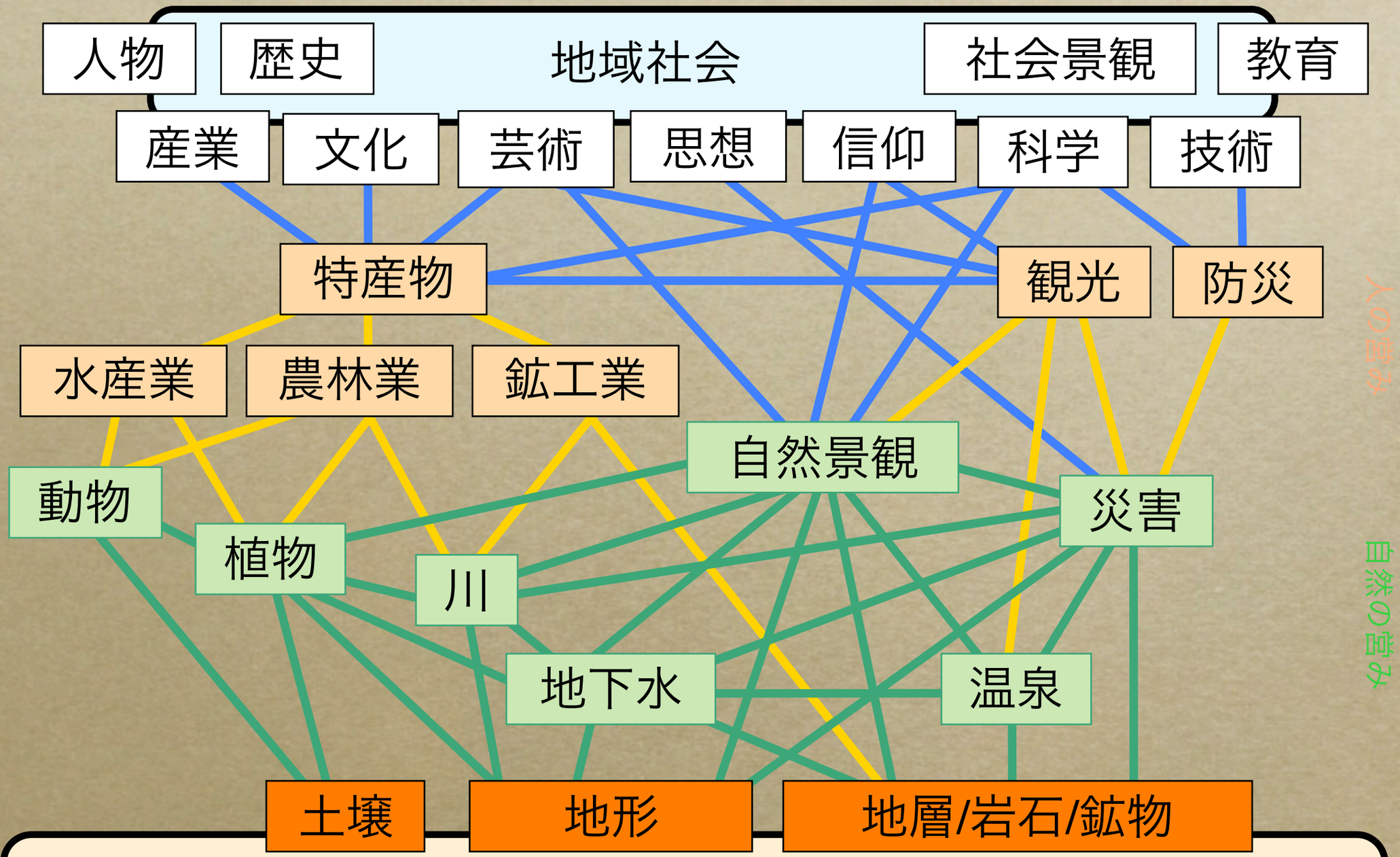
ダイビングなどのマリンレ
ジャーもたくさんあるよ

伊豆の
自然・歴史・文化・遊び
をうまくつなげてみてください

なぜ？

ほかとどうちがうの？

地面の上にあるものぜんぶジオパーク



大地(地域独特の地学的営みとその生産物)=ジオ

キャッチフレーズも考えてみよう

パンフレットを手に取るかどうかは写真などのデザインとキャッチフレーズにかかっている

空飛ぶ絨毯は知ってるけれど
ふわふわした雲の絨毯はまだ見たことがない。

信州で　風と雲に乗る。

まことでかい海よのう。

龍馬にあえる街　高知

でえれー（すごい）　ぼっけー（す、すごい）
もんけー（すす、すごい）

備中（岡山西部）に夢中

天城の山が磨いた水で
私もわさびも磨かれたのよ

いずのやね　茅野（伊豆市）

私はいま　日本ではなく　地球を旅しています

大人の休日倶楽部　TVCM

私はいま　日本ではなく　地球を旅しています

・世界ジオパークである伊豆半島

・日本の風景とは思えないものが見られそう！

→どんな体験ができそうか

・伊豆を旅しながら地球を感じられる

→どんな価値が得られそうか

- 身近だけど特別な自然や文化を見つけよう
- 自然と人とのつながり、物語を見つけてつなげよう
- 短く、分かりやすい言葉で伝えよう

みなさんのパンフレット
たのしみにしています。

臨海学園に来る中学生に向けてキャッチコピーを考えてみよう

臨海学園に来る中学生に向けてキャッチコピーを考えてみよう

わかりやすく、短く伝える

特徴をとらえてひとことで魅力を伝える。

世界遺産「富士山」

吉田胎内樹形

国指定天然記念物 吉田胎内樹型

指　定　昭和４年12月17日指定
所在地　富士吉田市上吉田字剣丸尾（指定面積5.8ｈａ）
所有者　山梨県

溶岩樹型は、粘性の低い玄武岩質の溶岩が、森林を覆い焼失させる際に、樹木が鋳型の役割をなし、溶岩内部が空洞となったものである。本樹型は、承平７年（９３７）に富士山から流出したとされる剣丸尾第１溶岩流の東縁に６２基分布するが、周辺にはこれ以外にも多数の樹型があり、約1,000年前には森林が広がっていたことが分かる。

これら樹型群の中でも代表的樹型である吉田胎内は、溶岩トンネル（内部の溶岩が流出し空洞となったもの）に巨木を包み込んだ溶岩が流れ込み、上段が溶岩トンネル、下段が溶岩樹型になったと考えられる横穴（長さ１４．５ｍ）と、３本の縦位の樹型がつながったものである。このうち横穴上段の溶岩トンネルは、下段の巨木が焼失した際の高温ガスで再溶融した溶岩が皺状に流れ下り、壁面が肋骨状を呈すとともに滴状に垂下がる溶岩鍾乳石を形成し、まるで人体内部のようになっており、「胎内」と称される由縁でもある。また、下段の溶岩樹型には、木肌の痕跡と考えられるものや様々な色合いの天然ガラス（溶岩鍾乳石の一種）とそれが床面に滴り落ちた溶岩石筍がみられる。なお、横穴末端には富士講中興の祖である食行身禄の祠が祀られている。

この横穴を１２ｍほど進んだところに、深さ３ｍほどの縦穴があり、そこを降りると２つの横穴がある。この横穴は、溶岩樹型ではなく、溶岩下の火山灰層を人工的に掘ったと考えられる穴であり、それぞれ瓊々杵命を祀る父の胎内（長さ８ｍ）と木花開耶姫命を祀る母の胎内（長さ２０ｍ）とされた。特に木花開耶姫命は安産の神とされ、富士講の人々は胎内への参詣を終えると、安産の腹帯や蝋燭（出産の際に灯すとお産が軽くなるとされた）を求めた。なお、それぞれの先端には約６～７ｍの樹型（縦穴）が地表へ向かって伸びている。

この吉田胎内は、埼玉県入間郡宗岡（現、志木市）の丸藤講の先達である星野勘蔵（行名は日行星山）が発見し、明治２５年（１８９２）に開いたもので、江戸時代から知られていた船津胎内を旧胎内と称するのに対して、新胎内と呼ばれた。現在は、富士山北口御師団が管理し、毎年４月末には、胎内祭を執り行い、一般へも公開している。

平成24年８月

山梨県教育委員会
富士吉田市教育委員会

Government-designated Natural Monument

Yoshida Lava Tree Molds

Designated on December 17th, 1929
Located at Kemmarubi, Kamiyoshida, Fujiyoshida City (5.8ha)
Owned by Yamanashi Prefecture

Lava tree molds are the caves created when trees with a function as molds were disappeared after a basaltic lava flow with low viscosity engulfs a forest, burns the trees and solidifies. In this designated area, there is a distribution of 62 lava tree molds over the eastern rim of the Kemmarubi-1 lava flow which flowed from a lateral volcano of Fujisan in 937. The existence of many lava tree molds in and around the designated area shows the fact that forest spread out here about one thousand years ago.

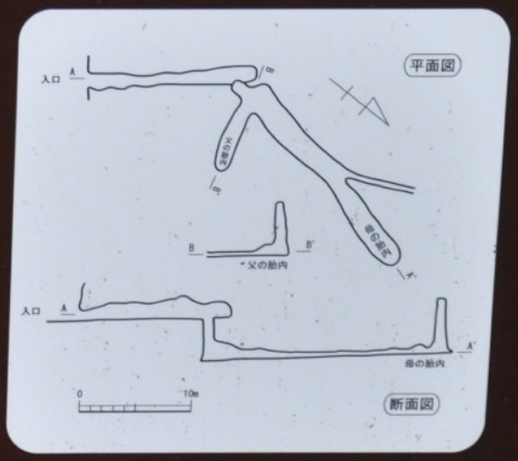
"Yoshida Tainai" is representative of those lava tree molds. It is a compound of three longitudinal lava tree molds and a horizontal cave (14.5 meters in length) which consists of an upper lava tunnel and a lower lava tree mold where lava with a giant tree is thought to have flowed into a lava tunnel (a hollow where internal lava flowed away). In the upper lava tunnel of the horizontal cave, lava re-melted in hot gas of a burnt giant tree in the lower level, flowed down to make the wall wrinkled in the form of rib bones, and form droplet-like lava stalactites. "Tainai" is so named because the inside of this cave looks like the interior portion of the body. In the lower lava tree molds, we can see remains which are thought to have been tree surface, natural glasses (kinds of lava stalactites) in various colors, and lava stalagmites which are the glasses dropped down on the floor. Jikigyo Miroku, a great leader who resurged the Fuji-ko worship, is enshrined at the end of the horizontal tunnel.

There is a 3-meter-deep vertical tunnel about 12 meters deep from the entrance of the horizontal cave. We see two other horizontal caves after going down the vertical one. These horizontal caves are not lava tree molds, but tunnels which are thought to be artificial cave dug into a volcanic ash layer. One (20 meters in length) is called "Haha no Tainai (the interior portion of the Mother)" enshrining Konohana Sakuya Hime no Mikoto, the goddess of Fujisan and the other (8 meters in length) is named "Chichi no Tainai (the interior portion of the Father)" enshrining Ninigi no Mikoto, the husband god of Konohana Sakuya Hime no Mikoto. Konohana Sakuya Hime no Mikoto is supposed to be the goddess of safe delivery of babies and Fuji-ko adherents demanded abdominal bandages and cradle for easy deliveries after they made a circuit inside the "Otaninai" as a religious practice. At the innermost recesses of each cave, lava tree molds (longitudinal tunnel) of approximately 6 to 7 meters deep stretch up to the surface of the earth.

This "Yoshida Tainai" was found and opened as a pilgrimage destination in 1892 by Hoshino Kanzo (also known by the ascetic name of Nichigyo Seizan), a leader of "Maruto-ko", a Fuji-ko group based at Muneoka, Iruma-gun (present Shiki City), Saitama. It is also called "Shin Tainai (New Tainai)" in contrast with "Kyu Tainai (Old Tainai)" of Funatsu lava tree molds, which has widely been known since the Edo period. At present, this cave is managed by Fujisan Kitaguchi Oshi Dan, who holds Tainai Festival and opens this cave to the public at the end of April every year.

August, 2012

Yamanashi Prefectural Board of Education
Fujiyoshida City Board of Education



世界遺産「富士山」

吉田胎内樹形

もしかしたら面白いことが

書いてあるかもしれないけれど・・・

野外の解説版の場合、お客さんが読む

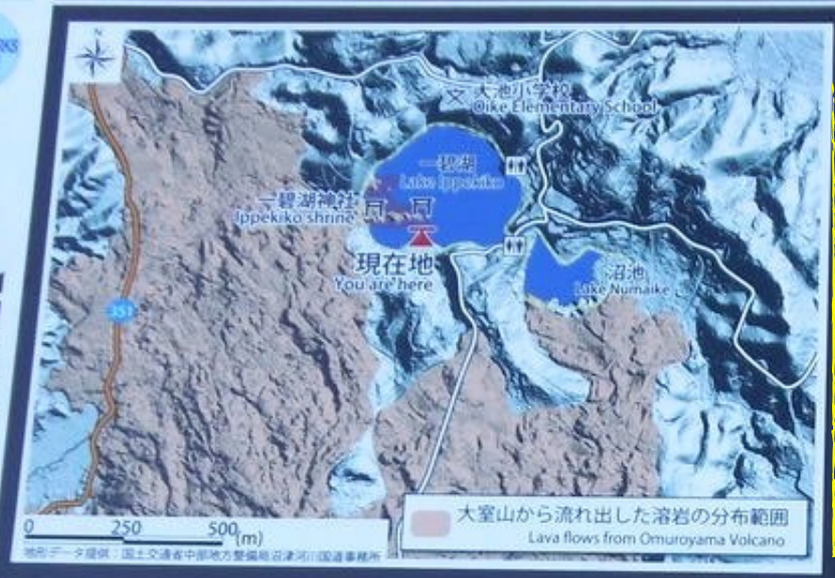
のは平均で1～2分

ひとつの文章ブロックは200文字くらい

伊豆半島ジオパーク
IZU PENINSULA GEOPARK

火山がつくった湖と島
A crater Lake and Lava islands

伊東エリア・一碧湖 / 梅木平ジオサイト
一碧湖神社
Ito Area - Ippekiko/Umenokidaira Geosite
Ippekiko shrine



「伊豆の瞳」と呼ばれる一碧湖（大池）は、約 10 万年前におきた噴火でできた直径 600m ほどの火口湖です。約 4000 年前には、ここから約 2.5km 南にある大室山から流れ出した溶岩が湖の一部に流れ込み、正面に見える「十二連島」ができました。

美しく静かに水をたたえる湖の湖畔では、春には桜、秋には紅葉を楽しむことができます。

一碧湖には「大池の赤牛」という民話が伝えられています。

Lake Ippekiko, fondly referred to as the pupil of Izu, is a crater lake about 600 meters in diameter, a result of an explosive eruption dating back approximately 100,000 years. Approximately 4,000 years ago, large amounts of lava flowed down from Omuroyama Volcano, located about 2.5 kilometers to the south, poured into the lake forming the Junirento Islands, literally meaning “twelve islands” in Japanese, at the front.

In addition to the beauty and quietness of the lake, cherry blossom trees bloom in spring and colored leaves can be enjoyed during autumn.

一碧湖の主による災い
大池の赤牛
Red Bull Legend of Lake Ippekiko

大池（現在の一碧湖）にいた赤牛が、舟で通る住民たちをわずらわしく思い、たびたび襲っていた。人々の苦しみを知った上人が自らの命と引き換えに赤牛を封じ込めるという話。そのため現在も一碧湖には赤い鳥居が立っています。

Once upon a time, a monster "Red Bull" living in Lake Ippekiko often attacked boats that crossed over its head because they were a nuisance to the red bull. One day, a high priest saw the people's misery and sealed off the Red Bull in exchange for his own life. Even now, a red torii gate stands at the lake, representative of the folk tale.

設置・管理者：伊東市　観光課
http://www.city.ito.shizuoka.jp/
監修：伊豆半島ジオパーク推進協議会
http://izugeopark.org/